

コトづくり長野宣言

平成 17 年 11 月 25 日

NPO 横断型基幹科学技術研究団体連合

前 文：

深刻化する地球環境問題をはじめ安心・安全な社会の実現が求められるなど、現代社会は様々な問題を抱えており、その対処には多くの相矛盾する課題の解決が必要である。また、わが国において少子高齢化が進行し、ものづくりの面で発展途上国から急速な追い上げを受けるなかで、新たな価値創造の基盤を確立することが急務となっている。

これらの問題解決には、横断的視点に立った知の統合が不可欠であることは誰もが認めるところである。しかし、掛け声のみで、それを具体的に実現する戦略と施策を欠いている。そこで文理にまたがる 43 の学会が横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合：おうかんれんごう）として結集し、発足以来この問題に学のサイドから取り組み、文科省政策提言プログラムなどいくつかの提言を行ってきた。このような形での異分野に属する学会の連合を通じた知の統合の試みはわが国では過去に例のない初めてのものであり、国際的にも新しい動きとして注目されている。

本日この地長野で、これまでの成果を問う第 1 回横幹コンファレンスを開催し、知の統合の新たな戦略目的として「コトづくり」を提唱する。これこそ日本の科学技術が再び世界におけるリーダーシップを取るための出発点となるものである。

「コトづくり」とは、ものの形だけではなくその「機能」およびその機能を「創造するプロセス」を重視し体系化していくことである。そのためには、必然的に細分化されていく個別分野の「知の相互関係を探求」すること、個々の知見の中から普遍的な原理を抽出して「汎用的な知へ拡大する仕組み」を構築することが必要である。そしてその結果として、社会的課題の解決に役立つ真の「知の統合」を実現することである。

横幹連合は、わが国の科学技術におけるコトづくりの重要性を訴え、その振興に力を尽くすことを以下のように宣言する。

宣 言：

1. 知の統合に向けた学問の深化とその推進

横幹連合は、人類が蓄積してきた知を社会的価値として活用するために知の相互関係を探求し、専門分化の寄せ集めではない真の知の統合を実現するとともに、統合の手法を体系化し、新しい学問領域の創生を目指す。

2. 横断型基幹科学技術を活用した社会問題解決

横幹連合は、既存縦型研究分野ならびに産業界と連携し、知を統合し活用するための横断的視点に立った具体的方法論を確立する。例えば「リスクの計量化・可視化と制御」、「人と機械の共生」などに関して、文理にまたがる学会が協力し、これまでにない大きなスケールで問題解決の道筋を明らかにする。

3. 知の統合を推進・定着させるための人材育成

横幹連合は、俯瞰的視点を持って科学技術をマネージできる人材、横幹科学技術をベースとした新産業創出を主導できる人材の育成に向けた人材教育強化プログラムを提案し、関連学会や関連大学との連携により、その実現を目指す。

以上